

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・**実施結果**)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (11月20日実施)	総合評価 (3月11日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の状況やニーズに応じた教育課程の運用・改善に取り組む。 ②組織的な授業研究に取り組み、意欲や目標を持って主体的に学び考える力を育成する。	①本校の教育課程の特徴とねらいを職員間で共有し、教科等横断的な取り組みを推進する。 ②教職員が協力して授業研究に取り組み、生徒の学習意欲を向上させる。	①指導と評価の計画の活用を進める。公開授業月間でも他教科の授業からも学び、研究を深める。 ②教教会等での情報共有を十分に行い、本校生徒の現状と課題を踏まえた授業づくりを進める。 ③公開授業および授業参観後の教職員の振り返りや改善の取組みが十分であったか。 ④授業研究のための校内研修を年2回以上実施し、教職員の指導力向上を図る。	①職員対象アンケートでの記述欄で、教科等横断的な視点からの回答が増えたか。 ②授業研究活動の実施状況と参加率を高めることができたか。 ③公開授業および授業参観後の教職員の振り返りや改善の取組みが十分であったか。 ④生徒アンケートによる授業満足度、学習意欲の変化があったか。 ⑤教職員アンケートによる授業改善意識の高まりがあったか。	①公開授業月間では、他教科の授業観察への参加割合が7割以上となった。 ②授業研究活動等の参加率が向上し、教職員の授業改善意識も高まった。 ③特に初任者研修においては、参観者数が非常に多く、授業研究に関する関心の高さがうかがえた。 ④校内研修は4月(進路支援Gと共同)、9月に計2回実施し、11月に3回目の研修を予定しており、継続的な授業改善の機会が確保されている。	①指導と評価の計画の有効活用を促す仕組みづくりを進める。 ②授業研究活動の継続的な実施と、参加率のさらなる向上を図る。 ③公開授業後の振り返りを体系的に行い、改善の成果を共有する仕組みを整える。 ④生徒・教員アンケートの結果を分析し、授業改善に具体的に反映させる体制を構築する。 ⑤校内研修の内容や成果を記録・共有し、教職員間の学びを広げる。	②授業の中では、ICT機器も積極的に活用されており、生徒のプレゼンテーション能力が非常に向上している印象を受けた。生徒が自分の考えをしっかりと表現できていた。 ③授業研究を通じた生徒の変化について、具体的な数値で示してほしい。	①指導と評価の計画を活用する仕組みに課題があった。 ②中堅研究受講者と連携し公開研究授業を企画・運営した。9割以上の職員が参加し、授業改善への意欲を高めた。 ③生徒対象の授業評価アンケートでは、肯定的な評価を9割以上得た項目が前年度と比較して各学年平均で11項目増加した。 ④職員対象の事前事後アンケートを実施できなかった。	①指導と評価の計画を活用する具体的な仕組みを作る。 ②年度当初から多くの教職員と協働して年間を通して計画的に授業改善に努める。 ③生徒が学んだことを応用、活用する段階に授業の質を引き上げる。 ④各研修の前後や年間の適切な段階で教職員対象のアンケートや聞き取りをおこない、授業研究の取組に反映させる。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①社会の一員として積極的に能動的な態度を持つ生徒を育成する。 ②社会の一員としての規範意識・自治意識を育み、生徒自身が安心・安全な学校づくり携わる意識を育成する。	①各行事において、生徒が主体的に活動できる場面を増やす。 ①部活動の加入率を前年度よりもあげるとともに、その定着を促す。 ②生徒の規範意識と自治意識を高め、生徒が希望する進路の実現につながる生徒の支援・指導を実施する。	①各行事の実行委員会等で生徒がアイデアを出したり、判断する機会を増やしたりして行事に反映させる。 ①部活動見学や、HP、ポスター等の広報活動をさらに充実させるとともに、校内生徒向けに部活動を続ける意義を発信する。 ②職員全体の生徒支援のスキルを上げるとともに生徒委員・保護者(PTA)と連携し、規定・ルール・マナーの徹底を図る。	①行事实施後の生徒アンケート等で、生徒の意識や充実感の向上はみられたか。 ①部活動加入率及び部活動の定着率はあがったか。 ②問題行動件数、指導件数、事故件数、外部からの情報提供件数が減少したか。	①生徒の行事に対する満足度は上がり、文化祭では自主的な宣伝活動や売上高の上昇などの結果も出し、意識も向上した。 ①部活動加入率はわずかではあるが上昇した。 ②問題行動件数、指導件数、外部からの情報提供件数が前年度の同時期と比べ減少した。	①引き続き行事に対する生徒の意識や充実度の向上を目指すとともに、各行事の質を上げる工夫を行う。 ①部活動を行う環境の整備を進め、部活動の定着率や満足度を上げる。 ②生徒の規範意識向上を更に進めるため、引き続き職員の生徒支援スキルの向上を図る。	①文化祭では、これまで同様生徒の活発で、生き生きとした姿を見ることができた。 ①4月の部活動見学を次年度も継続し、新入生の部活動加入率のさらなる向上を期待する。 ②生徒が来校者に挨拶や案内をしっかりとできており、礼儀正しい印象を受けた。挨拶の励行は、生徒が学校を肯定的に捉える生徒が増えていることの流れではないか。	①学校行事の内容が充実し生徒の満足度も向上したので、個々の生徒の主体性を高めさせたい。 ①部活動加入者数が微増の一方で、定着には課題が残る。 ②問題行動件数等は減少傾向であるが、自治意識の更なる向上を促進することが必要である。	①実行委員会や各種委員会において、生徒が主体的に動く場面をより多く設定する。 ①部活動を続ける意義を、進路実現などとも絡めて発信する。 ②生徒委員、PTAと情報共有を行いながら、自治意識の向上をはかる。
3	進路指導・支援	①多様化していく現代に適応できる人材の育成を図る。 ②基礎的・汎用的能力の育成を通して、生徒が将来の見通しを持ち、希望する進路を実現するよう支援する。	①様々なガイダンスや進路希望調査、外部模試を活用する。 ②授業やガイダンス等を効果的に実施し、キャリア意識の形成を図る。	①最新情報の提供、進路希望調査の実施や生徒の希望の把握と、その実現に向けた指導を行う。 ②ガイダンスや説明会等を計画的に実施し、生徒の進路選択の幅を広げ、目標の設定と振り返りを行わせる。	①情報の提供ができたか。 進路希望調査や分野別の説明会等適切に行えたか。 ②ガイダンスや説明会を計画的に実施することができたか。 生徒が自己実現に向けた目標の設定と振り返りをすることができたか。	①進路に関する情報の提供や進路希望調査を活用することで、生徒の進路希望の把握を行い、進路指導に活かすことができた。 ②各ガイダンスや説明会を計画的に実施することができた。	①外部模試の活用を充実させ、生徒の進路選択の幅を増やし、主体的に進路選択ができるようにする。 ②生徒の目標の設定が、自己実現に向けた目標として適切であるかの検討をどのように行うかが課題である。	①学校にさまざまな職業の人を呼んでおこなう講話を次年度以降も継続してほしい。 ②将来やりたいことの見通しをもつことができていない生徒への対策をさらに期待したい。	①生徒や保護者に、進路に関する情報の提供ができた。分野別ガイダンスや進路希望調査を計画的に実施することができた。 ②生徒にガイダンス等に見通しを持って参加させることが課題である。	①他グループや学年との連携を一層図り、学校全体でキャリア支援に取り組んでいく必要がある。 ②見通しを持った進路活動ができるよう、3年間の計画の作成や、振り返りの充実を図る。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (11月20日実施)	総合評価(3月11日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<p>①地域に開かれた学校づくりを推進するとともに、情報発信を通じて、地域から信頼される学校づくりを強化する。</p> <p>②地域・学校外との連携・協働を通し、より豊かな学びの環境を整える。</p>	<p>①地域との連携活動を充実させ、積極的な情報発信により学校への理解と信頼を高める。</p> <p>②学校運営協議会から助言や支援を受け、生徒の地域活動への参加の機会を増やす。</p>	<p>①学校行事や学校説明会を開催し、地域との交流機会を増やす。</p> <p>①ホームページやSNSなどを活用し、学校活動や教育成果についてタイムリーに情報発信を行う。</p> <p>②地域や学校外で生徒が活動できる機会の情報の収集及び提供を積極的に行う。</p>	<p>①学校行事や学校説明会の実施回数および地域住民の参加状況は高まったか。</p> <p>①学校の情報発信の頻度、内容、地域からの反響が高まったか。</p> <p>②地域や学校外の活動に参加する生徒の数は増えたか、参加後の生徒アンケート等で、生徒の意識や充実感の向上はみられたか。</p>	<p>①学校行事(飛翔祭)では来場者数が増加するなど、地域住民の参加状況も向上した。</p> <p>①ホームページやSNSを活用した情報発信の頻度と内容が充実し、地域からの反響も高まった。特に、図書委員による図書館SNSでの定期的な発信、文化祭実行委員による各クラスの出し物のSNSでのPR活動など、生徒主体の情報発信が活発に行われ、地域とのつながりを深める成果が見られた。</p> <p>②地域の保育関係施設からのボランティア募集案内を各クラス掲示にしたところ、参加する生徒数を増やすことができた。また、新羽小学校の1年生児童が、本校を訪問し、授業・学校施設の見学を実施した。</p>	<p>①地域との交流機会をさらに拡充し、双方向の関係づくりを進める。</p> <p>①SNS等による情報発信の質とタイミングを工夫し、地域との信頼関係を強化する。</p> <p>①生徒による地域活動や情報発信の成果を可視化するため、事後アンケートや振り返りの仕組みを整備する。</p> <p>①図書館や文化祭でのSNS活用を継続・発展させ、学校全体での広報力向上を図る。</p> <p>②活動に参加した後の生徒の意識の変化を調査できるように生徒の把握と事後アンケート実施などの方策を検討する。</p>	<p>②地域の行事に積極的に参加してもらい、交流を続けていきたい。地域の小中学生にとって高校生の姿は刺激になる面がある。</p> <p>②地域の小学生が遠足や学校探検など今年度もさまざまな形で新羽高校と交流することができた。今後も高校や高校生との交流が増えていくことを望んでいる。</p> <p>②今年度は図書館で地域の中学生の職業体験を実施する見込みで、貴重な交流の機会と捉えている。</p>	<p>①学校説明会(秋季2回)、学校見学会(夏季6回、冬季4回)を実施し、地域への情報提供に努めた。定員超過後の希望者への対応に課題が残った。</p> <p>①学校見学会は生徒主体の運営を実現した。</p> <p>②地域でのボランティアに関心がある生徒が一定数いることが把握できたが、活動の持続性や生徒の意識の把握に課題がある。</p>	<p>①ホームページ、各種SNSの特性を生かし、これらと内容をうまくすみ分けながら、対象と目的を明確化して現地での説明会、見学会を適切な規模、回数、定員で実施する。</p> <p>②地域からの情報をきめ細かく発信するとともに、参加生徒の意識の把握に努め、意欲や興味のある生徒の背中を押してやる。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①学習環境及び生活環境の整備と向上を促進する。</p> <p>②学校運営の効率化と事故不祥事防止に取り組む。</p>	<p>①校内のICTインフラの整備を進める。</p> <p>②校内業務のICT化を推進し、業務の削減・効率化をはかり、教員の働き方改革を進める。</p> <p>②職員に対して情報セキュリティの意識向上を図る。</p> <p>②定期試験や成績処理等において事故ゼロを目指す。</p>	<p>①ネット接続環境を向上させる。</p> <p>①教室に設置されている大型モニター&電子黒板と端末の活用を推進する。</p> <p>①非常勤講師を含む全職員に1人1台校務用PC・端末を割り振る。</p> <p>①職員対象情報セキュリティ研修会や履行確認を実施し、職員の情報セキュリティ意識を向上させる。</p> <p>②定期試験や成績処理等において定められた手順を遵守し、事故防止を徹底する。</p>	<p>①ネット接続環境が向上したか。</p> <p>①大型モニター&電子黒板と端末を活用の好事例が増えたか。</p> <p>①非常勤講師を含む全職員に1人1台校務用PC・端末を割り振れたか。</p> <p>②職員の情報セキュリティ意識が向上したか。ICT機器の紛失を防げたか。</p> <p>②定期試験や成績処理等における事故を未然に防ぐことができたか。</p>	<p>①県の業者との契約内容が改善されネット接続環境が向上した。</p> <p>①多くの職員が大型モニター&電子黒板と常設端末を活用し、ICTを活用した授業を行っている。</p> <p>①非常勤講師を含む全職員に1人1台校務用PC・端末を割り振れた。</p> <p>②情報セキュリティ研修会を実施し、職員の情報セキュリティ意識を向上させ、ICT機器の紛失を完全に防いだ。</p> <p>②通知表や成績書類の発行に際しては十分な点検作業を行うことにより、ミスをなくすよう周知した。</p>	<p>①生徒が購入した端末を自宅から学校に持ってこない生徒が3学年に多くいたので、どのようにすれば、学校に端末を持て来させることができるのか検討が必要である。</p> <p>②職員会議等での情報共有を通して一人ひとりが事故防止について意識を高める。</p>	<p>①授業内で一人一台端末がよく活用されていた。同時にスマートフォンで代替して学習している場面もあった。いずれにおいても、情報リテラシーの教育が課題となってくると感じた。</p> <p>①校内ICTインフラが整っている印象を受けた。</p> <p>人員の入れ替えがあっても持続可能な体制を構築していくことが重要ではないか。</p>	<p>①古いWi-Fi全ての取り換え工事があり、ネット環境が向上した。</p> <p>①大型電子黒板と大型モニター&端末を連結することにより授業のICT化を推進した。</p> <p>①非常勤講師を含む全職員に1人1台校務用PC・端末を割り振れたが、以降の継続に不安が残った。</p> <p>①リース物品の履行確認を精励し、ICT機器の紛失を未然に防いだ。</p> <p>②定期試験実施や成績処理等には細心の注意を払い、決められた手順に従って作業を行うよう周知した。</p>	<p>①古い校務用PCの使用については県に例年とおり、夏以降まで使用できるように要望する。</p> <p>②各人が手順に従い、慎重に校務を遂行し、複数の目で点検してミスを未然に発見・修復できるよう注意喚起を続けていく。</p>